* 2024 年度以前に履修登録された EHO7（監査論入門）とは別科目になりますのでご注意ください

専門教育科目 講義科目

授業科目名	監査論入門	科目コード	配当年次	単位
担当教員	中村 俊紀	EK52	3・4	2

科目の概要

会計監査とは、企業の経営者が作成した財務諸表が、適正に表示されているか否かに関して、利害関係者に報告する仕組みであり、今日公認会計士や監査法人による企業の監査に対しては、社会的な関心が高まりつつある。

本科目では、会計監査におけるその役割と機能、金融商品取引法と会社法に基づく会計監査制度、実際の会計監査のプロセスと監査意見等について、体系的な学習を行うことにより、監査に関する基礎的な知識を習得する。

科目の到達目標

- ①公認会計士による会計監査の役割と機能と、金融商品取引法と会社法に基づく会計監査制度の全体系が理解できる。
- ②実際の会計監査のプロセスと監査意見等について理解し整理した上で、監査と会計学との関係を考察できる。

テキスト 『監査論テキスト』山浦 久司, 中央経済社, 2024年

テキストの読み方

- ①わが国における監査制度は近年ますますその領域が拡大しているので、その技法を学習する。
- ②株式会社監査制度は、金融商品取引法による法定監査ならびに会社法上の監査役による監査、さらには会計監査人の監査から成り立っていることを学習する。
- ③わが国の経済の発展、企業規模の拡大などにもない、会計監査に対する社会的要請の増大を反映し、幾多の改正および検討が加えられ、絶えず変革を続けて今日に至っていることを学習する。
- ④会計監査を理解するためには、その背景にある会計に関する知識が欠かせない。とくに会社法や金融商品取引法の規定する財務内容開示制度（ディスクロージャー制度）など、企業を取り巻く法規を意識してテキストを読めば、より多くの会計監査に対する知見が得られると思う。

単位修得の方法

レポート課題を提出し、60点以上であれば合格となり、科目修得試験を受験できる。科目修得試験の得点が60点以上であれば合格となり、評価が確定し、2単位を修得できる。